

ときがわ町水道審議会会議録

会議の名称	令和元年度第1回ときがわ町水道審議会
主な議題	委員の委嘱書交付 会長及び副会長の選出 ときがわ町水道事業の現状説明
開催日時	令和元年11月13日(水) 開始 13時30分 終了 15時15分
開催場所	ときがわ町役場第二庁舎 3階協議会室
会議録の公開(非公開・一部非公開)とその理由	公開
出席者	小宮 正委員、野原和夫委員、岡本 忠委員、峯岸正明委員、前田郁子委員、清水 隆委員、戸口隆雄委員 渡邊一美町長、水道課伊得正巳課長、小林大介主幹、新井裕文主査
審議等内容又は概要	委員の委嘱書交付 ・ 7人の委員に委嘱書交付 ・ 渡邊一美町長あいさつ ・ 自己紹介(委員7名及び事務局3名) (終了後、町長退席)
	議事1 協議事項 会長及び副会長の選出 協議結果 互選により次のとおり決定する。 会 長 清水 隆委員 副会長 小宮 正委員 協議の概要 司会(小林主幹)が臨時議長として進行し、委員の互選により決定する。 (清水会長に議長交代)

	<p>議事 2 ときがわ町水道事業の現状について 議長 清水 隆会長</p>
	<p>説明者 事務局 説明の概要 資料No.1～2により平成30年度ときがわ町水道事業の決算について事務局が説明 ①平成30年度ときがわ町水道事業決算の概要 ②決算状況の推移について</p> <p>質 疑</p> <p>委 員 有収率は通常あまり変化しないものと思われる。毎年石綿管やTS管を更新していても下がってしまっている。</p> <p>事務局 管路を更新してくるとともに有収率が上がっていかれることが理想ではある。現状、管を更新するペースを老朽化するペースが上回っていると思われる。職員による夜間漏水調査、また専門業者に委託し漏水調査を行っているが大きな改善には至っていない。</p> <p>委 員 管更新や漏水調査を行っているのに有収率が下がると議会や住民から疑問が出るのではないかと。漏水を発見するための手法を考えるべきと思う。</p> <p>議 長 有収水量は減っているとのことだが、無収水量が増えているということはないか。今の話だと無収水量が増えていないのであれば漏水が原因ということになり経営状況の悪化につながる。</p> <p>事務局 無収水量が大幅に増えていることはない。ただ、ときがわ町は水圧が高いことで水道メーターが感知しない水量があるのではと考えている。</p> <p>議 長 石綿管の更新状況は。 事務局 平成30年度末で残り1.2キロメートルほどである。</p> <p>議 長 漏水件数は。 事務局 修繕工事の件数は減る傾向にある。以前に比べ住民からの漏水の通報が減っており、地表に現れる漏水が減っているように感じる。</p> <p>委 員 ときがわ町の配水区域がブロックで分けられているのであれば、区域ごとに日報等で配水量を確認し、その中で異常ある区域を見つけ漏水箇所を絞っていくことはでき</p>

		<p>るのではないか。</p>
事務局		<p>配水区域を分けて管理している。その中で漏水が疑わしいエリアを絞り、今年も4地区で漏水調査を実施したが、大きな改善につながるような漏水の発見はなかった。</p>
委員		<p>水道課としても有収率を向上させていのは当然のことであり、何が原因かを調べてほしい。</p>
議長		<p>有収率が毎年3%ずつ下がってしまうことは経営に直結してしまうと思うので、漏水調査は引き続き進めていただきたい。</p>
委員		<p>有収率については議会でも取り上げられている。原因の解明を急いでいただきたい。</p>
事務局		<p>漏水箇所の分析をすると、漏水の9割が本管から各家庭等のメーターまでの給水管で発生している。また古いTSビニール管につながっている古い給水管もあり、そのすべてを直すとなると相当な期間と金額を要することになる。それらの更新がすべて終われば漏水は無くなると思われるが、管路の更新は延々と続くものである。それ以外に水圧を適正にしていく必要がある。県企業局の支援をいただきながら改善を図っていきたい。</p>
委員		<p>給水人口が減ってきているとのことであるが、ときがわ町の人口減少も大きな課題となっている。また水を使ってくれる企業誘致を進めていかないと収入増加につながらないと思う。</p>
事務局		<p>町として企業誘致は進めていかなければと思うが、状況により大きな設備投資が必要となる場合がある。企業からの収入に頼るだけでなく、人口減に歯止めをかけなければ継続的に事業を展開していくことは困難な状況である。</p>
議長		<p>どこの中小の水道事業体においても同様の課題を抱えている。埼玉県として東京都水道のように将来は県内一水道となるよう進めている。山間部があるなどの地理的な問題で、県南と同列にならないことは実感しているが広域化を進めていく。</p>
委員		<p>人口減少は日本全体の問題であり、今後も続くものと思われる。人口が減少することを見据えた計画を立ててほしい。</p>
事務局		<p>ときがわ町水道事業経営戦略の策定に際しては、町が策定したときがわ町人口ビジョンを基に今後の人口を推</p>

計している。県内の広域化を見据えると、費用も時間もかかるがときがわ町水道の経営や施設を県内他自治体と比して一定レベル以上にする必要はある。

説明者 事務局

説明の概要 資料No.3～4によりときがわ町水道事業の現状について事務局が説明

③経営比較分析表について

④近隣、類似事業体との経営指標の比較について

質 疑

委 員

ときがわ町は一般会計から補助金をもらっているが、資料No.4で比較している他の事業体で一般会計から補助金をもらっているところはあるか。

事務局

上水道事業で補助金をもらっているところはない。

委 員

供給単価が高い事業体あるが、いつ頃から高くなったのか、またその際に住民からどのような反応があったかなど耳にすることはあるか。

事務局

越生町は平成27年4月に料金を改定している。

近年、経営戦略を策定した事業体において、計画上で料金改定を示された事業体が多くある。近隣においても計画上で15%から20%の料金改定となっており、今後段階的に料金を改定していく予定との情報はあ

委 員

ここに住んでいて水道料金が他と比べて高いとか安いとかあまり感じることはないと思う。経営状況を説明し値上げの必要性を伝えれば、住民は理解してくれる。越生町においても反対意見はほとんどなかったと聞いている。

どこの事業体においても県水への依存が大きいため、県水が値上げされるタイミングで値上げしていると思う。ときがわ町でも当然考えるべきである。

議 長

現在1m³あたり61.78円で各市町村に供給している。秩父地域を除いた55の受水団体に供給しているが、その割合は地下水を除くと75%が県水となっている。その他に事業体ごとで作る自己水の費用を足して各家庭に送る水道料金になっている。昨年度に水道法が改正され水道料金を適正なものに設定すると明文化された。基本的に

	<p>水道施設は老朽化しており更新には費用がかかるため、料金が高くなることは目に見えているが、知恵を絞ることでその費用をいかに圧縮できるかを各事業体が努力している状況であり、今後料金を上げずに経営していくことはあり得ないのが実態である。県としては広域化により極端な料金の格差は解消できると考えている。</p> <p>委員 大野地区や柵平地区には全て町の水道が入っているのか。</p> <p>事務局 大野地区は3つの簡易水道があり地元の人たちにより運営されており、町の水道事業には含まれていない。柵平地区は町の水道が入っている。</p> <p>議長 鳩山町の経営は非常に良い状況に思えるが、何か秘訣があるのか。</p> <p>委員 3,000 トンの県水配水池へ中継場からポンプアップしており、そこから自然流下で各配水池に送られている。さらに自然流下で各地域に送られているので電気料や設備費用がかかっていない。ポンプで圧送していないので停電してもタンクに水が入っていれば供給することができる。</p> <p>議長 鳩山町は県水 100%で受水しているのか。</p> <p>委員 80%から 90%くらいである。</p> <p>委員 県水は限りなくあるものなのか。渇水時でも対応できるのか。</p> <p>議長 地盤沈下防止を目的に昭和 43 年から県南部から始まったものであり、秩父地域を除いた 55 団体に供給している。基本的に市町村が将来必要とする量により県水の規模を決めており、現在 5 か所の浄水場の施設能力は 265 万 5 千トンである。ただし市町村の使用水量が下がってきているのでダウンサイジングにより将来的には減らしていくことになっている。県水は河川表流水で作っているので、渇水になり川に水が無くなれば減量となるが、ゼロになることはないよう、供給している全団体に節水協力してもらい水を賄えるようしている。極力断水にならないようにし県民の生活に影響が無いようにしている。</p>
	<p>議事 3 その他 説明者 事務局 説明の概要 審議会の開催については、今年度は 1 回のみ。令</p>

	<p>和 2 年度は複数回の開催を予定しており、水道施設の視察も行う予定。 (全員了承)</p>
	<p>閉会 小宮 正副会長閉会あいさつ</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 参考資料 (ときがわ町水道審議会条例) ・ 資料No.1 平成 30 年度ときがわ町水道事業会計決算書 ・ 資料No.1-2 平成 30 年度ときがわ町水道事業決算の概要 ・ 資料No. 2 決算状況の推移 ・ 資料No. 3 経営比較分析表 (平成 29 年度決算) ・ 資料No. 4 近隣、類似事業体との経営指標の比較 (平成 29 年度決算) ・ 資料No. 5 ときがわ町水道事業経営戦略